

公益社団法人日本アメリカンフットボール協会 2019年度事業報告書

I 活動報告

2019年度（2019年4月1日～2020年3月31日）は、当協会にとって公益社団法人としての第7期となり、定款・規程・規則に則った協会運営を進めた。

4年に1度開催される国際連盟主催、2019シニア世界選手権が延期されたことから、2019年度に国内の競技力向上、代表強化の観点からシニア日本代表を編成し、アメリカの強豪チームと対戦する事業を行った。

また、競技の安全性を向上させることを重要方針に定め、重大事故を減少させるため安全なタックル技術のテキストを作成し、安全指導を推進した。

日本のアメリカンフットボールから暴力・ハラスメントを排除し、スポーツマンシップとフェアプレイ精神に満ちた競技スポーツにするための活動として、各地でフェアプレイシンポジウム等を行った。

2020年2月開催予定の「第23回医科学研究会」、3月開催予定の国際親善試合「第9回TOMODACHI BOWL」「ヘッズアップフットボールクリニック」「タレント発掘」などの事業が新型コロナウイルス感染防止の観点から中止・縮小されることとなった。

1) 日本スポーツ協会公認指導者養成事業

定款第5条第1項第1号に関連する事業として、公益財団法人日本スポーツ協会が主催する公認指導者養成事業の一つとして、日本スポーツ協会（JSPO）からの委託に基づいてアメリカンフットボール競技に関するコーチ資格の専門科目講習会を開催した。

「公認コーチ1」資格の養成講座については、関東、関西、東北、九州の4地区において20講座を開催し75名が受講、48名が修了した。2017年度から開始した上級資格の「公認コーチ3」の開催は行わなかった。2018年度末の資格保有者数は358名、その内資格更新を行なった有効資格者は285名であった。また、2019年9月及び2020年9月迄に更新時期を迎える公認指導者資格保有者を中心に資格更新に必要な更新研修会「ショルダータックリングセミナー」を7月東京で開催し、11名が受講した。

2月、3月に開催を予定した更新講習会は新型コロナウイルス感染症防止の観点から開催を見送った。なお、本件はJSPOに問合せ、対象者については受講猶予対象として今後感染症の状況によって開催を再開する事とした。

頸椎損傷や頭部外傷予防の観点から、危険とされる腰から下へのタックリングをどのように指導するかが大きな課題となっていたが、その指導方法を確立したUSA Footballのビデオ教材を元に「ショルダータックリング・テキスト」「ヘッズアップブロッキング・テキスト」の2冊発行した。このテキストを公認指導員養成講習会の専門科目教材として採用し、過去の受講者にも販売することとした。また、併行し進めていた公認指導者養成講習会、専門科目テキスト更新のため、

「ドリルブック1」を作成し、2020年度初めには「ドリルブック2」を作成する予定としている。

日本スポーツ協会公認指導者養成講座の制度が2020年度から「公認コーチ1」専門科目カリキュラムの受講時間数が40時間から20時間に変更された事を受けて、全国の指導者の資格取得推進に繋げるため、現在のカリキュラムを見直し、新テキストの採用により4日間32時間のカリキュラムとする改正を行った。

2) コーチクリニック、フットボール教室

定款第5条第1項第1号に関連する事業として、日本スポーツ振興センターくじ助成プログラム（スポーツ活動推進事業）の助成を得て、「JAFU フットボールアカデミー」を実施した。

アメリカの団体 USA FOOTBALL が安全なフットボールの普及を目指して開発したプログラム「ヘッズアップフットボール (HUF) プログラム」を基本とし、頭部傷害を少なくするために、ヘルメットではなく肩で相手に当たることを推奨する最新のタックル技術である「ショルダータックリング」の講義・実技を中心に「正しい防具の装着」から成るプログラムを各学生連盟で実施した。

しかし、今年度、後期に予定していた3学生連盟でのクリニックは新型コロナウイルス感染防止の観点から中止とした。

- ・2019年5月12日（日）：関西学連ヘッズアップフットボールクリニック（156名参加）
- ・2019年6月2日（土）：東北学連ヘッズアップフットボールクリニック（125名参加）
- ・2020年3月8日（日）：東海学連ヘッズアップフットボールクリニック（100名参加予定）
⇒新型コロナウイルス感染防止の観点から中止とした。
- ・2020年3月13日（金）：中四国学連ヘッズアップフットボールクリニック
（180名参加予定）⇒新型コロナウイルス感染防止の観点から中止とした。
- ・2020年3月22日（日）：北陸学連ヘッズアップアカデミーキャンプ（160名参加予定）
⇒新型コロナウイルス感染防止の観点から中止とした。

また、ガバナンス強化の一環として「スポーツマンシップを身につけ、競技の場においてフェアプレイを実践する」ことを目標に、フェアプレイワーキンググループを組織し、フェアプレイシンポジウムを開催した。

- ・2019年7月14日（日）：大阪開催 フェアプレイシンポジウム（35名参加）
- ・2019年7月20日（土）：福井開催 フェアプレイシンポジウム（45名参加）
- ・2019年11月23日（土）：北海道開催 フェアプレイシンポジウム（56名参加）
- ・2020年2月24日（祝）：宮城開催 フェアプレイシンポジウム（32名参加）
- ・2020年3月1日（日）：関東開催 フェアプレイシンポジウム（77名参加予定）
⇒新型コロナウイルス感染防止の観点から中止とした。
- ・2020年3月21日（土）：東海開催 フェアプレイシンポジウム（20名参加予定）

⇒新型コロナウイルス感染防止の観点から中止とした。

3) 川崎市まちづくり推進連絡調整会議参加、ならびにアメリカンフットボールの普及活動

定款第5条第1項第1号及び第11号に関連する事業として、川崎市のまちづくり推進連絡調整会議に参加し、アメリカンフットボールを活用した川崎市のまちづくりと、川崎市におけるアメリカンフットボールの普及発展に努めた。

2007年、川崎市と本法人との間で「アメリカンフットボールを活用した川崎市のまちづくり」に関する包括協定を締結し、川崎市主導の「まちづくり推進委員会」に参加してきたが、2015年3月に富士通スタジアム川崎が完成したことから、川崎市関連団体、川崎市市民団体、アメリカンフットボール競技団体が一体となって、2016年2月、川崎市の協力を得て、富士通スタジアム川崎を活用したまちづくりを推進するために、「アメリカンフットボールを活用したまちづくり推進連絡調整会議（議長：間野義之早稲田大学スポーツ科学学術院教授）」を発足した。

2019年度も、引き続き、競技団体が富士通スタジアム川崎への来場者を増やす活動を促進し、スタジアム周辺での賑わいを作り出すために地元商店街の協力のもと屋台村を設置するなど、アメリカンフットボール競技団体と地域との連携によるまちづくりを推進した。

4) 大規模災害の被災地及び被災者に対する支援に関する事業

定款第5条第1項第1号、第12号に関連する事業としては、2019年度に実施事業はなかった。

5) アメリカンフットボール日本選手権「ライスボウル」の開催

定款第5条第1項第3号に関連する事業として、アメリカンフットボール日本選手権「第73回ライスボウル」を主催した。

対戦カードは、社会人は4年連続5度目の富士通、学生は出場最多13回目、2年連続の関西学院大学であり、昨年と同じ対戦となった。

試合序盤は関西学院大学のディフェンス陣が踏ん張り富士通の攻撃を抑えるものの、QB高木翼を擁する富士通が強力なパス攻撃で終始主導権を握る展開となり、果敢に挑む関西学院大学を38対14で下し、4年連続5度目の日本チャンピオンの座を獲得した。

導入から5年目を迎えた1階指定席は完売し、観客数は31,552人となり、正月3日の恒例行事としてフットボールファンの間で定着している。

6) 高校生連盟・中学生連盟の主催試合に対する後援

定款第5条第1項第3号に関連する事業として、以下の大会を後援した。

- ・高等学校国際交流試合（第16回パシフィックリムボウル）
2019年7月27日（土） 関西地区高校選抜 対 アシュランド高校 於）オレゴン州
- ・2019年度高等学校日本選手権大会決勝戦、（第50回クリスマスボウル）
2019年12月22日（日） 於）横浜スタジアム
- ・東西地区選抜高等学校アメリカンフットボール対抗戦（第9回ニューイヤーボウル）
2020年1月12日（土） 於）富士通スタジアム川崎
- ・第7回日本中学生アメリカンフットボール選手権
2020年1月13日（日） 於）富士通スタジアム川崎

7) 国際試合へのチーム派遣

定款第5条第1項第4号に関連する事業として、国際試合に日本代表チームを派遣した。

- ・国際交流戦 日本代表 対 THE SPRING LEAGUE 選抜
遠征日程：2020年2月27日（木）～3月3日（火）
試合日程：2020年3月1日（日）
試合会場：アメリカ、テキサス州フリスコ市 フォードセンター アット ザ スター
試合結果：日本代表 16 対 36 THE SPRING LEAGUE 選抜

また、技術向上および国際試合を目的として、日本スポーツ振興センターくじ助成プログラム（タレント発掘・一貫指導）の助成を得て、7月及び12月のトライアウトで選抜した18歳以下の日本選抜チーム選手40人を、USA Football が主催する強化育成キャンプ及びインターナショナルボウル2020に派遣した。

- ・インターナショナルボウル2020（USA Football 主催）
遠征日程：2020年1月10日（金）～1月17日（金）
現地キャンプ：1月10日（金）～14日（火）
試合日程：1月15日（水）
試合会場：アメリカ合衆国テキサス州アーリントン市 AT&T スタジアム
試合結果：U-17 US National Team 20 対 28 U-18 Japan Select Team

8) 国際試合の主催・後援

定款第5条第1項第4号に関連する事業として、東日本大震災の後、米軍が OPERATION TOMODACHI（ともだち作戦）と称して東北に物資の補給などの支援活動を展開したことをきっかけとして、一般社団法人関東学生アメリカンフットボール連盟が主催した下記「第9回 TOMODACHI BOWL」を後援した。

しかしながら、新型コロナウイルス感染防止の観点からこの試合は中止となった。

・第9回 TOMODACHI BOWL

(米軍基地高校、アメリカンスクール選抜チーム 対 U-18 関東・東北選抜チーム)

試合日程：2020年3月8日(日)

試合会場：米軍厚木基地 リードメモリアルスタジアム

対 戦：Team USA (米軍基地高校、アメリカンスクール選抜チーム)

Team Rising Sun (U-18 関東・東北選抜チーム)

9) 国際試合への審判員の派遣

定款第5条第1項第4号に関連する事業として該当する国際試合が行われず、審判員の派遣は実施しなかった。

10) 競技規則の制定・告知・頒布

定款第5条第1項第5号に関連する事業として、競技規則委員会(2019年3月16日開催)の決定に基づき、アメリカンフットボール競技の2019年度公式規則を以下のとおり加盟団体に周知した。

- ・2019年4月1日、「2019年度・公式規則変更予定報」として変更内容の概要を告知
- ・2019年7月1日、「2019年度・公式規則変更内容・決定報」として2018年度公式規則からの変更内容、関係する条文の変更および追記内容を告知

11) 安全対策全国会議

定款第5条第1項第6号に関連する事業として、2020年2月22日(土)北里大学北里研究所病院(白金キャンパス)の会議室にて全国の加盟団体安全対策担当者を集めて第27回Jafa安全対策全国会議を開催した。

今回より新たに6団体(日本中学生AF協会、日本女子AF協会)、日本シニアAF協会、日本プライベートフットボール協会東日本支部、九州フラッグフットボール協会、九州社会人AF連盟)が参加し、全20団体の会議体となった。

議事は各団体の1年間の安全対策活動と重大事故の概要報告に続いて、個別の重大事故事例の原因究明と予防策が協議された。外傷報告については、新加入団体を含めて次年度以降も継続して行うことを確認した。

12) 医科学研究会

定款第5条第1項第6号に関連する事業として、2020年2月23日(日)「第23回日本アメリカンフットボール医・科学研究会」の開催を予定したが、新型コロナウイルス感染防止の観点から中止とした。

1 3) ドーピング検査

定款第5条第1項第6号に関連する事業として、日本スポーツ振興センターくじ助成プログラム（ドーピング検査）の助成を得て、三大ボウルゲーム（甲子園ボウル、ジャパン・エックスボウル、ライスボウル）においてドーピング検査を実施した。ドーピング検査は、専門機関である日本アンチ・ドーピング機構（JADA）が行った。検査の結果陽性例はなかった。

1 4) アンチ・ドーピング講習会

定款第5条第1項第6号に関連する事業として、以下の日程でアンチ・ドーピング講習会を開催した。多くの指導者、選手はアンチ・ドーピングの趣旨は理解しているものの、禁止薬物に関する知識、持病等で処方を受けている薬物の事前申請（TUE）、居場所情報提出などの手続きなどについて十分な知識を有しているとは言い難く、啓発活動の一環として講習会を開催した。

・アンチ・ドーピング講習会（関東開催）

- (1) 日時 2019年10月29日(火) 18:00～20:00
- (2) 場所 JSOS 会議室3階 会議室2
東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 3階
- (3) 対象者 第73回日本選手権出場対象チームメディカルスタッフ
- (4) 出席者 13チーム 25名

・アンチ・ドーピング講習会（関西開催）

- (1) 日時 2019年10月30日(水) 19:00～20:30
- (2) 場所 関西学生アメリカンフットボール連盟会議室
兵庫県神戸市灘区王子町2-1（神戸王子スタジアム内）
- (3) 対象者 第73回日本選手権出場対象チームメディカルスタッフ
- (4) 出席者 7チーム 13名、地区学連 1名、合計14名

1 5) 受講者推薦（日本スポーツ協会公認スポーツドクター、及びアスレティックトレーナー養成講座）

定款第5条第1項第6号に関連する事業として、日本スポーツ協会が主催するスポーツドクター養成講座及びアスレティックトレーナー養成講座の受講生を推薦した。推薦にあたっては、安全対策委員会、医・科学部会が、受講希望者の中から日本スポーツ協会の受講者選考基準をもとに適格者を選考した。

1 6) アメリカンフットボールに適した競技場の設置促進

定款第5条第1項第7号に関連する事業として、各地の自治体等が球技場を設置する情報収集を心掛けているが、2019年度においては実現に結びつくような成果は得られなかった。

17) CFO 会議への競技規則委員派遣・参加

定款第5条第1項第5号に関連する事業として、全米大学体育協会（NCAA：National Collegiate Athletic Association）の公式規則変更、公式規則適用の状況を正確にかつ迅速に把握するために、以下のとおり関係者を派遣した。

- ・（米国）大学フットボール審判協会（CFO：College Football Officiating LLC）が主催するナショナル・レフリー・カンファレンス（2019年4月26日・27日開催）に競技規則委員会の副委員長を派遣
- ・（米国）大学フットボール審判協会（CFO：College Football Officiating LLC）が主催するナショナル・インスタントリプレー・クリニック（2019年5月2日・3日開催）に競技規則委員会から依頼した関東審判部の監事を派遣
- ・フットボール・コーディネーター・ミーティング（2020年1月28日・29日開催）に、競技規則委員会の副委員長および委員1名を派遣

18) WEB サイトによる情報発信

定款第5条第1項第9号に関連する事業として、Jafa 専用の WEB サイトを活用して、国際試合における日本代表チームの活動、Jafa が主催する日本選手権ライスボウルの出場チーム紹介及び試合結果、Jafa の各委員会の活動に関する情報を発信した。

19) 殿堂顕彰

定款第5条第1項第10号に関連する事業として、今年度は5年毎の殿堂顕彰者の選考を行い、12名の殿堂表彰者を選出し、2020年1月3日のライスボウル当日に表彰を実施した。

- ・10月19日（土）・20日（日）公益財団法人キープ協会が主催する八ヶ岳カンティーフエアに参加

20) 関係団体・機関との情報交換・連携

定款第5条第1項第11号に関連する事業として、国際アメリカンフットボール連盟（IFAF）、公益財団法人日本スポーツ協会（JSPO）、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）、独立行政法人日本スポーツ振興センター（JSC）、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構（JADA）、公益財団法人日本スポーツ仲裁機構（JSAA）、一般社団法人日本トップリーグ連携機構（JTL）大学スポーツ協会（UNIVAS）など関係団体・機関と密に情報交換を行い、連携して活動した。

(1) 国際アメリカンフットボール連盟 (IFAF)

NFLとIFAFが戦略的パートナーとして連携してアメリカンフットボールの普及に努力することとなり、IFAFの活動に対してNFLから財政的な支援を受けることができるようになった。これを受けてIFAFは戦略的プラン2020-2024を立案し、その中にIFAF事務局機能を強化して加盟国に対して今まで以上の支援を行うことが盛り込まれた。

2019年11月2日、ロンドン市内クラウンプラザホテルにて2019年度IFAF総会が開催され、JAFaを代表して興常務理事が、IFAF上席理事である金氏顧問が出席した。IFAF総会ではNFLとのパートナーシップに基づく戦略プラン2020-2024が承認された。

2020年2月ごろからコロナウイルスの感染が全世界に広がったことから、3月IFAF理事会は2020年に予定していた2つの世界選手権大会(U-19WC及びフレッジフットボールWC)及び2020年度IFAF総会の延期を決定した。IFAF総会についてはアメリカ合衆国で開催することが決定された。

(2) 公益財団法人日本スポーツ協会 (JSPO)

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格のうち、アメリカンフットボール指導員資格の認定業務を共同で実施するとともに、有資格者の義務研修を実施して資格保有者の資格更新を促した。

スポーツドクター、ならびにアスレティックトレーナーの養成講座の受講生候補者を公募のうえ選任して推薦した。

日本スポーツ協会、日本オリンピック委員会を初めとして多くのスポーツ団体とより密接な情報交換・連携ができるようになることから本年度JAPAN SPORT OLYMPIC SQUAREに入居した。

(3) 公益財団法人日本オリンピック委員会 (JOC)

日本オリンピック委員会総務委員会に国吉会長が、選手強化本部会には清水専務理事がそれぞれ委員として出席し、顧問弁護士が日本オリンピック委員会主催国際人養成アカデミーを受講した。

日本オリンピック委員会が主催する数多くのプロジェクトならびに会合には、業務執行理事が中心となって対応した。また、日本オリンピック委員会からのアンケート調査に協力し回答した。

(4) 独立行政法人日本スポーツ振興センター (JSC)

スポーツ振興センターの助成金事業に応募し、くじ助成事業として「ドーピング検査事業」、「JAFaフットボールアカデミー事業」(スポーツ活動推進事業)、そして高校生以下の年齢別強化練習とUSA Footballが主催して2020年1月にテキサス州ダラス市で開催されたインターナショナルボウルに高校生40人を派遣する事業(タレント発掘・一貫指導育成事業)、JAFaフェアプレイシンポジウム(フェアプレイ推進事業)を実施した。

(5) 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 (JADA)

三大ボウルゲーム (甲子園ボウル、ジャパン・エックスボウル、ライスボウル) でのドーピング検査を、日本アンチ・ドーピング機構の協力を得て実施した。

(6) スポーツ庁

スポーツ庁からスポーツ団体におけるコンプライアンス体制強化の助言を受け、内部通報窓口を協会内だけでなく、協会外にも設置し運用した。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策においては、日々刻々と状況が変わる中、様々な情報提供を受け、協会活動の意思決定の情報とするとともに、傘下の団体とも情報共有を図った。

(7) 一般社団法人日本トップリーグ連携機構 (JTL)

エックス・リーグ (社会人アメリカンフットボール協会) が加盟する日本トップリーグ連携機構の評議員会に国吉会長が、理事会に深堀理事がそれぞれ評議員ならびに理事として参加し、日本トップリーグ連携機構メンバーのエックス・リーグとともに NF (統括団体) の立場から日本における球技スポーツ競技の発展に係る事業に協力参加した。

(8) 大学スポーツ協会 (UNIVAS)

昨年、日本学生協会を主体のもと、競技団体として学生スポーツ協会に加盟した。今年度は競技団体として、UNIVAS CUP への参加、医療従事者支援制度の活用、協会サイトでの動画配信事業など、様々な取り組みにより競技の普及活動に協力いただいた。また、加盟大学における課外活動への取り組み等の情報提供を受け、協会運営の参考とした。

以上

Ⅱ 内部統制体制の整備についての決定および運用状況の概要

1. 現状整備されている内部統制関連規程

- 1) 理事会運営規程
- 2) 旅費規程
- 3) 役員等の費用弁償規程
- 4) 役員の報酬等の支給の基準を記載した書類
- 5) 謝金規程
- 6) 倫理懲罰規程
- 7) 内部通報規程
- 8) 殿堂顕彰規程
- 9) 寄附金等取扱規程

10) 会計規程

- 11) アンチ・ドーピング規程
- 12) 個人番号及び個人情報の保護に関する基本方針
- 13) 個人情報及び個人情報の保護に関する基本規程
- 14) 管理運営基金取扱規程
- 15) 日本代表チーム編成規程
- 16) 加盟団体に関する規程
- 17) 保有株式取扱規程
- 18) 印章管理規程
- 19) 理事等の職務権限規程
- 20) 理事会提出役員選任議案作成に関する基準
- 21) 就業規則
- 22) 委員会規程
- 23) 法人カード利用規程

2. 2019年度、内部統制関連規定の改訂等

- 1) 理事等の職務権限規程（改訂）
2019年度第3回理事会（2019年8月4日）
- 2) 法人カード利用規程
2019年度第4回理事会（2019年11月16日）
- 3) 会計規程（改訂）
2019年度第4回理事会（2019年11月16日）

3. 内部通報関連

- | | |
|----------|----|
| 2019年度通報 | 4件 |
| 2019年度解決 | 0件 |

重要な事項は、すべて事業報告に記載した。

以上